

県立安房高等学校

目 標

- ・ 生徒の留学等への興味関心を高める。
- ・ グローバル社会における国際理解の必要性を喚起する。
- ・ 国際理解教育を推進するための校内・校外体制を構築する。

留学生等との交流会の開催

1 留学生による中国語講座

- (1) 日 時：平成30年10月25日（木）13時から16時
- (2) 会 場：本校 第1学年各教室、第2学年各教室
- (3) 留学生等：城西国際大学の留学生、台湾に留学経験のある日本人学生
- (4) 参 加 者：第1学年生徒及び第2学年生徒479名、教職員15名、 計 494名
- (5) 内 容：13:00～13:45（5限） 授業の打合せ
13:55～14:40（6限） 2年生対象の中国語講座、質疑応答
14:50～15:35（7限） 1年生対象の中国語講座、質疑応答

(6) 事前学習：実施していない。

(7) 事後指導：感想文の作成

(8) 参加者の感想等：

- ・ 中国語の発音が難しかった。
留学生の流暢な日本語に驚き、これから外国語の学習に力を入れたいと思った。



- ・ 台湾の話聴いて、修学旅行に向けて、異なる文化や環境に興味と不安を抱いた。中国語の簡単なあいさつはできるようになったので、実際に台湾でも使ってみたい。
- ・ 留学生の方々から日本のことについても話を伺って、自分の国なのに知らないことが多くあることに驚いた。また留学生の方々の話す日本語を聴き、英語の勉強を頑張らなくてはと感じた。
- ・ 日本と台湾では違う文化が多くありそうなので、注意深く観察したいと思った。異文化を理解し、自分の国と比べてそれぞれの良いところを見つけられるようにしたい。
- ・ 外国に行くのは今回の修学旅行が初めてなので不安だが、異国の文化に触れる良い機会なので学んだ中国語で充実したものになりたい。
- ・ 日本とは違った文化やマナーやルールもあるので、ただ楽しむだけではなくそれらを学んでいきたい。色々な人と出会い、交流したい。
- ・ 中国語でのあいさつは以前から知っていたが、そのアクセントや正しい発音を修学旅行直前に知ることができ良い機会になった。
- ・ 英語がわかっていたら台湾でも言葉が通じると思っていたが、今回の中国語講座を通じて、やはり中国語（現地の言葉）を使うことにコミュニケーションの醍醐味があるのだと思った。

2 留学生との交流会 in 城南国際

- (1) 日 時：平成30年12月15日（土）10時から12時45分
(2) 会 場：城西国際大学 観光学部（鴨川市）
(3) 留学生等：城西国際大学の留学生
(4) 参加者：第1学年生徒16名、教員3名、計 19名
(5) 内 容：10:00 城西国際大学正面入口集合
10:10～11:00 挨拶および自己紹介、留学生による自国紹介
11:00～12:30 キャンパスツアー・交流・昼食
12:45 解散

はじめに、城西国際大学観光学部学部長の倉林教授が、観光学部の紹介や、日本の観光産業の可能性についての講義を行った。これから求められる「新しい価値を生み出す力」について、貴重なお話を聞くことができた。講義後には、留学生が英語で自国紹介をした。ベトナム、



チェコ、インドネシアの基本情報や観光地、歴史、文化などについてのプレゼンテーションを聞くことができた。スライドにはたくさんの写真や映像が含まれており、生徒たちはそれらを手がかりに英語でのプレゼンテーションを理解しようと、とても集中していた。母国紹介後は、キャンパスツアーに出かけた。教室、図書室、展望台、寮などを



を少人数の班に分かれて見学した。お互いに「英語で話す」というルールに従い、活発な会話が行われていた。最後には、すっかり打ち解けた様子で班ごとに学食で昼食を一緒にとった。

同年代の留学生ということで、話題も豊富であり、お互いに伝えたいこともたくさんあるようであった。英語を流ちょうに話す留学生は、本校の生徒の目標になったように思われる。また、アジアの国々やチェコなど、英語圏以外の知識を得ることができる良い機会になった。

- (6) 事前学習：実施していない。
(7) 事後指導：感想文の作成
(8) 参加者の感想等：

留学生の母国紹介を聞いて

- ・今まで国名しか知らなかった国について、実際に住んで暮らしている方からのお話が聞けて、私も一度は海外に行って他国の文化に肌で触れてみたいと思った。
- ・英語が理解できないことがほとんどだったが、表情などでなんとなく感じ取れた。
- ・国によって伝統文化や料理が全く違うことを知ることができてよかった。

「留学生との交流会」に参加して

- ・留学生はとても優しく親切で、英語もわかりやすく、ゆっくり話してくれて、楽しかった。
- ・留学生から話しかけてくれて話が弾んだ。大学内も案内してくれてあまり知らなかった城西国際大学のことについて知ることができて良かった。私はコミュニケーションをとるのは好きだが、今まで留学生や外国の方と関わったことがなかったので、今回の交流会は、実際にたくさんのお話できて良かった。

海外理解促進のための講演会

1 第1回「グローバル人材プロジェクト」講演会

- (1) 日 時：平成30年5月29日（火）13時から13時45分
(2) 会 場：本校体育館
(3) 講 師：氏名 吉村 圭介 氏、渡邊 美帆 氏、出口 樹（本校教諭）
所属 神田外語大学卒業生と在学4年生及び本校教諭
(4) 参加者：第1学年生徒240名、他校からのJRC所属生徒30名、教職員15名、
計 285名

(5) 内 容：

講師が大学在籍時に行っていた国際ボランティア、Habitat for Humanity の活動報告やその経験を通して「ボランティアを通して考える国際交流」をテーマに講演を行った。講師それぞれが実際に活動を行った国々でのエピソードや活動報告を行い、それらをもとに国際交流について生徒に考えてもらった。



(6) 事前学習：実施していない。

(7) 事後指導：感想文の作成

(8) 参加者の感想等：

- ・帰る家があることが当たり前だと思っていた自分だけ、外国ではそれも当たり前ではないという現状を知り、自分にも何かできることがあれば積極的に取り組みたいと思った。またボランティア活動を海外で行う際、活動の幅を広げるためにもコミュニケーションの基礎である英語ができるようになりたいと思った。
- ・中国での活動の話聞いて、自分の知る中国の裕福なイメージとはかけ離れた実際に驚いた。またメディアなどから情報を得る際にも、その情報だけで国や人のイメージを固めてはいけないと思った。
- ・最初は自分には関係ないような話だと思っていたが、グローバル化が進む今、私たちは同じ地球に住む人として助け合っていく必要性を感じた。『自分で感じて考える』という言葉をしっかり胸に刻んでこれから進路を考えていきたい。
- ・講師の方が経験したように、今回の話を聴いて、「当たり前」というものが覆された。ボランティアとは、地域の方との交流や関わりでもあるのではないかなと思った。
- ・「ボランティアは誰かに何か一方的に与えるものではなくて、きっかけを作るもの」という講師の考えを聞いて、今までの自分が持っていたイメージが変わり自分自身も大きなものを得られるとわかった。ぜひ何かしらの形で参加してみたい。

2 第2回「グローバル人材プロジェクト」講演会

- (1) 日 時：平成30年11月27日（火）13時から13時45分
(2) 会 場：本校体育館
(3) 講 師：氏名 石井 恵莉香 氏

所属 空港ターミナルサービス株式会社

経歴 本校卒業後、神田外語大学に進学。同大学に在学中留学やインターンシップなど様々な経験を積み、現在空港ターミナルサービス株式会社に勤務。

(4) 参加者：第1学年生徒240名、教職員約15名、 計 255名

(5) 内容：

講師が大学在籍時に行っていたアメリカへの留学経験や中国などへのインターンシップの経験について、「留学・海外研修を通して感じたこと、学んだこと」をテーマに講演をしていただいた。また講師が本校に在学しているときの目標設定の仕方や物事への取り組み方など卒業生の目線から後輩である生徒に向けて興味深い話をしていただいた。

(6) 事前学習：実施していない。

(7) 事後指導：感想文の作成

(8) 参加者の感想等：

- ・自分がどのように、何から影響を受けるかはわからないが、叶えたい夢ができたとき、それを達成できるように早い段階から努力をしていくことが大事だとよくわかった。
- ・自分の現状に満足せず、もっと頑張らなくてはと思えるのがすごい。今現在自分が取り組んでいることがこの先どこにつながるかわからないので一生懸命取り組みたい。
- ・闇雲に勉強するのではなく、どのくらい英語を上達させたいかなどイメージをして、その目標に向かって取り組んでいくことが改めて大切だと感じた。
- ・ただ外国語を学ぶだけではなく、仕事や生活、社会の一員として活躍するためのコミュニケーションツールとして実用している点に大きな関心を抱いた。また留学することによってメディアで伝えられる表面だけでなく、その国や文化の深くも知る機会が得られるのだなと思った。
- ・海外でも楽な方を選ぶのではなく、自分の目指すものに着実に向かっていく姿勢を見習いたい。
- ・様々なことを経験することの大切さを感じた。今の狭い視野だけ物事を考えるのではなく、常に自分に回ってきたチャンスに積極的に挑戦して自分の経験値を上げていきたいと思った。
- ・これまで留学することは全く考えていなかったが、話を聞いて自分の将来の様々な可能性について考えてみたくなった。



3 第3回「グローバル人材プロジェクト」講演会

(1) 日時：平成31年2月5日(火) 14時から15時30分

(2) 会場：本校体育館

(3) 講師：氏名 成瀬 猛 氏

主な経歴 麗澤大学教授、JICA 客員国際協力専門員、JICA パレスチナ事務所所長、JICA 社会開発調査部調査1課課長、JICA パレスチナ事務所所長、JICA

ケニア事務所次長、JICA 無償資金調査部基本設計 1 課課長、JICA 鉱工業
開発調査部計画課課長代理 など

(4) 参加者：2 学年生徒 237 名、教職員約 15 名、計 250 名

(5) 内容：

『『これからの国際社会』を見据え日本国の未来を創造し世界平和と繁栄を願いつつ君たち若者に期待すること』というテーマで講演していただいた。はじめに変化しつつある世界と日本の現状や、これから求められる人材像についてお話をいただいた。

次に、成瀬教授と 2 年生の代表者 4 名によるパネルディスカッションが行われた。事前に「台湾修学旅行での学び」と「近未来の社会に対する期待と不安」という 2 つのテーマをいただき、代表生徒が意見を述べた。代表者達は修学旅行での学びについて、言葉が伝わることの安心感や国外に出てはじめて感じる日本の良さへの気づきなどについて語った。近未来の社会については、年金制度に対する不安や、現在存在している職が無くなってしま

かもしれないという不安がある一方、科学技術の発展によってより便利な社会になるだろうという期待が語られた。成瀬教授がそれぞれの生徒の意見に対してさらに問いかけていくことで、より一層 4 人の考えが深まった。

最後に成瀬教授から、どのような大学を選ぶべきかご助言いただいた。大学教授をされていた立場からのお話は説得力があり、2 年生は進路選択や大学受験に向けて意識が高まっているので、非常に有意義な講演会であった。

(6) 事前学習：実施していない。

(7) 事後指導：感想文の作成

(8) 参加者の感想等：

世界の現状等について考えたこと

- ・今世界にはいろいろな問題がある国がたくさんあることがわかった。実際に行ってみないとわからないと思うので、是非そのような国に行ってみたいと思った。
- ・ビデオを見て、あんなに小さな国でも問題はたくさんあって、その上その問題を日本が作っている可能性があるという事実は、現地に行ったり、こういう話を聞いたりしないとわからないことだと思うので、もっと世界の現状に目を向けるべきだと思う。

自分自身について考えたこと

- ・私が世界や日本に対して役立てることは何だろうと考えた。将来の大学や仕事選びについてきちんと考えようと思った。
- ・グローバル化という言葉をよく聞くが、自分には遠い存在だと思っていた。しかし、今日の話聞いて少しずつではあるが自分にできることは何だろうと考えた。これからの社会、科学が発展していく中で自分にしかできないことを見つけ、そこを追求していきたいと思う。



- ・「グローバル」と聞くと世界を考えてしまい、私一人には何もすることができないのではないかという不安が出てくる。でも全然そんなことはなくて、今自分たちができる事を考えるだけでも1つの大きな力になるなと思ったので、これからはネットなどで調べて出来ることを考えていきたいと思う。

事業の成果

- ・ 「留学生による中国語講座」では、第2学年がその約1週間後に台湾への修学旅行を控えていたこともあり、非常に積極的に参加することができた。実際に現地で役立つ文化に関する知識や中国語の表現を学ぶことができ、大変有意義な時間となった。
- ・ 「留学生との交流会 in 城西国際」では、年齢の近い留学生達と実際にコミュニケーションツールとして英語を用いて交流を大いに楽しむことができた。交流を通じて、留学生の母国とその文化について多くを学ぶことができた。今後もこのような機会を通して連携を深め、相互の学生にとって有意義な学びを深めていきたい。
- ・ 3回実施した講演会は、普段は聴く機会がない興味深い講演を聴くことができた。これらを通じて生徒達はそれぞれの進路と重ねるなど、自分自身の進路について考える貴重な機会となった。

今後考えられる新たな取組

- ・ 台湾修学旅行に向け、地域の理解及び交流の在り方などについて学習する機会を充実させる。
- ・ 国際交流を推進する地元自治体との協同学習の機会を検討する。
- ・ グローバル人材プロジェクト事業実施担当者による意見交換の機会を拡充させる。